



りんごの音符

12

私の両親は音楽関係ではありませんでしたが、音楽が好きな家庭で育ちました。4歳頃からヤマハ音楽教室の幼児科に通い始め、歌やエレキトーンなどを楽しんでいました。その頃は家にあったフランス出身のピアノで作曲家のリチャード・クレイターマンのCDをたくさん聞いていたので、一番好きな「渚の

ピアノ 秋元 孝介さん (兵庫県生まれ)

アデリーヌ」という曲を発表会で弾くことになりました。でもエレキトーンでは音域が足りないことが不満で、その発表会で初めてピアノを弾きました。それがピアノとの出会いです。小学校に入学した時に地元の個人のピアノ教室の先生に習い始めました。

音楽家になろうと思ったきっかけは、音楽高校2年のときにウィーンのコンクールで入賞したこと。初めての海外への挑戦で世界の音楽界に触れ、この道を極めたいと思うようになりまし

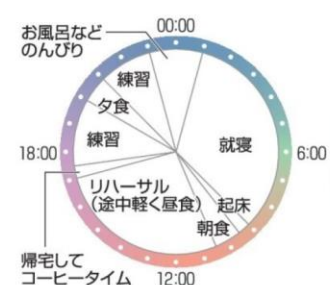
三重奏の調和体感して

鍵盤を押し込んでも音は増幅することなく減衰していきます。音が減衰してしまう感覚に私は心からのときめきを感じます。

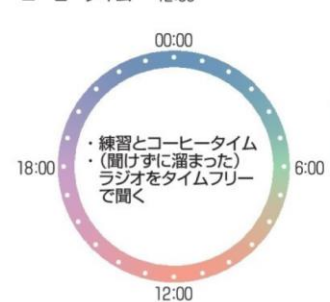
最も興味を持つ作曲家はニコライ・メトネル(1880~1951年)。彼はロシア人ですがドイツ系の出自もあり、当時ロシアではラフマニノフやスクリャーピンと並ぶ

「三羽鳥」と呼ばれていました。彼の作品は職人のように高度で緻密な構成を持ちながら、とてもロマンティックかつ叙情的で、その釣り合いが絶妙なバランスで保たれています。派手さはあまりないですが、聴けば聴くほど心のひだに触れる温かみを感じます。

私の活動の柱でもある「葵トリオ」は、日本では数少ない常設のピアノ三重奏団として日々ピアノ三重奏の魅力を発信しています。メンバー



普段の1日



休みの1日



都内の友人宅で撮影
(© Kosuke Atsumi)

〈あきもと・こうすけ〉 1993年5月10日、兵庫県西宮市出身。東京藝術大学音楽学部卒業後、同大学院音楽研究科博士後期課程を修了し博士号を取得。2018年、ピアノ三重奏団「葵トリオ」のピアニストとして、第67回ミュンヘン国際音楽コンクールピ

アノ三重奏部門で日本人初の優勝。第10回パデレフスキ国際ピアノコンクール特別賞など受賞多数。各地でソロリサイタルを開くほか、オーケストラとの共演や室内楽公演、アウトリーチ活動も積極的に行つ。国内外の音楽祭に



オーケストラ・セレーナの第14回演奏会で協奏曲のソリストとして出演する秋元さん—2024年8月12日、かつしかシンフォニーヒルズモーツァルトホール (© Takashi Fujimoto)

葵トリオ「完璧な演奏」世界を魅了

世界最難関と言われるミュンヘン国際音楽コンクールのピアノ三重奏部門における日本人初の優勝以来、世界から注目を集めるピアノ三重奏団「葵トリオ」。

演奏技術の高さはさることながら、王道演目だけでなく、演奏機会の少な

い作品や邦人作曲家の作品にも光を当てる活動が高く評価され、ピアノ三重奏の世界を開拓し続けている。ヨーロッパからアジアを舞台に古典から現代作品まで幅広いレパートリーを展開、「バランスの取れた完璧な演奏」で人々を魅了する。



葵トリオの前列左から時計回りに
小川響子さん、秋元孝介さん、伊東裕さん
(© Kosuke Atsumi)

東京藝術大学、サントリーホール室内楽アカデミーで出会い、2016年に結成。メンバーは兵庫県西宮市出身の秋元孝介さん(ピアノ)、奈良県橿原市出身の小川響子さん(バイオリン)、奈良県生駒市出身の伊東裕さん(チェロ)の3人で、第28回青山音楽賞バロックザール賞、第29回新日鉄住金音楽賞フレッシュアーティスト賞(19年4月より日本製鉄音楽賞に改称)など数々の受賞歴を持つ。

紀尾井ホールでは21年度から23年度

までレジデント・シリーズを務めたほか、27年のベートーベン没後200年に向けたサントリーホールとのプロジェクトが進行中。近年は室内楽のマスタークラスで講師も務め後進の指導も行っている。

国内ではこれまでに山崎伸子、原田幸一郎らに学び、ミュンヘンではフォーレ四重奏団のディルク・モメルツに師事。今年2月にはハワイツァーに招聘されるなど今後ますますの活躍が期待されている。(長谷川恵子)

6月30日~7月6日 県内で第1回「青い海と森の音楽祭」が開かれます